青森大学　学修達成度評価ルーブリック　（学位授与の可否の判定の指針）

4つの観点		11の能力	達成水準4段階（左端の「0」を除き、1→4）				
1. 生涯をかけて学び続ける力	社会の発展や自身の成長に応じて、広い関心と知的好奇心を持って、新たな価値創造や学習経験等の必要性に気づき、専門分野に限定せずに広い視野で、他者と協働しながら自らの学修を主体的・継続的に進めることができる。	1A 自主的に学ぶ力	1A0 具体的な指示がなければ、情報を収集し、文章や図表を読み取ることができない。	1A1 具体的な指示がなくても, 情報を収集し、文章や図表を読み取ることができる。	1A2 適切な方法で情報を収集し、目的に応じて整理し、又は蓄積することができる。	1A3 複数の情報を基に、課題解決に向けて、図表の作成、例示や提案を行うことができる。	1A4 複数の情報を俯瞰して、問題の本質を捉え、現実的な課題解決策を提案することができる。
		1B 学修を継続する力	1B0 指示がなければ、学修行動を開始し、継続することができない。	1B1 指示されたことに自分の考えを加えて、学修行動を開始し継続することができる。	1B2 指示がなくても、自発的に学修行動を開始し継続することができる。	1B3 目標を立てて、その達成に向けて、学修行動を開始し継続することができる。	1B4 目標に応じて、過去の学修行動を振り返り、自身に合った方法で学修行動を改善し継続することができる。
2. 人とつながる力	将来の地域社会を担う主体となることの自覚を持って、自分の考えを効果的に表現するとともに、他者に共感し、敬意を払って対話でき、社会の人々と新たな信頼関係を築きながら、協働することができる。	2C 信頼を築く力	2C0 自分の感情をうまく制御できず、相手の立場に立った行動をすることができない。	2C1 相手の立場や気持ちを理解しようと心がけ、穏やかな態度で接することができる。	2C2 初対面の相手でも自ら話しかけるなど、信頼関係を築こうとすることができる。	2C3 緊張する場面でも、自らの心を落ち着かせて、相手を気遣うことができる。	2C4 目的に応じて、自分の考えや気持ちを率直に表現し、相手の信頼を得ることができる。
		2D 協働する力	2D0 他の人と一緒に取り組んだり、議論したりすることがうまくできない。	2D1 チームの中で自分の役割を理解し、自分の考えを述べることができる。	2D2 チームの目標に向けて、他のメンバーと相談して行動することができる。	2D3 チームの状況を観察し、チームのメンバーに対し気配りや働きかけを行うことができる。	2D4 個々の多様性を活かして、チームのメンバーに対し働きかけ、目標達成に向けて貢献することができる。
		2E 表現する力	2E0 伝えたいことをまとめ、表現することができない。	2E1 自分本位の方法で、伝えたいことをまとめ、表現することができる。	2E2 書く・話す・話し合いのマナーやルールに従い、伝えたいことを表現することができる。	2E3 相手の状況に合わせて、伝える内容や方法を調整して表現することができる。	2E4 相手の立場や関心に合わせて敬語や比喩などを用いて、分かりやすく表現することができる。
3. 自分自身を見据え、確かめる力	将来を展望しつつ、自らの学修活動を計画し、その実践を多面的に振り返り、社会において自ら果たすべき責任を自覚し、自身の能力・資質の成長を確認するとともに、新たな課題を発見し、改善策を見出す活動ができる。	3F 課題を発見する力	3F0 主観にこだわり、情報を客観的に捉えることができない。	3F1 集めた情報を客観的に整理しようと努めることができる。	3F2 情報を集め、一つの仮説を立てることができる。	3F3 集めた情報を組み合わせて、複数の仮説を立てることができる。	3F4 複数の仮説の優先順位を考えて、現実の課題解決につなげることができる。
		3G 計画を策定する力	3G0 計画を立てて取り組むことができない。	3G1 目標と計画をおおまかに立て、取り組むことができる。	3G2 条件が示されれば、成果や発生する問題を予測できる。	3G3 過去の経験に照らして、新たな計画を立てることができる。	3G4 困難な事態を予想するなど、現実的で妥当な計画を立てることができる。
		3H 目標に向けて成し遂げる力	3H0 やるべきことがあっても、取り組むことができない。	3H1 自分なりに工夫しながら、前向きに取り組むことができる。	3H2 目標を意識して、初めてのことにも楽しんで取り組むことができる。	3H3 予想外の事態でも、目標を見失わず、対策を考えて行動することができる。	3H4 目標達成のため進捗状況を確認し、失敗からも学んで、行動を修正することができる。
4. 専門的知識・技能を活用する力	各学位プログラムの基礎と応用に関する知識・技能を修得し、それらを活用して、課題解決等の実践的活動を計画し、倫理的規範を守って行動することができる。	4I 基礎的知識・技能の理解（Idea）	4I0 何が基礎的な知識・技能なのか、分からない。	4I1 基礎的な知識・技能が一通り分かる。	4I2 基礎的な知識・技能の重要な要素を理解し、特定することができる。	4I3 基礎的な知識・技能を正確に記述し又は正しく表現することができる。	4I4 基礎的な知識・技能について、原理から応用まで所定の手順でたどり、解を示すことができる。
		4J 知識・技能の修得（Connections）	4J0 知識・技能の修得に必要な情報を見分けることができない。	4J1 知識・技能の修得に必要な情報を取捨選択することができる。	4J2 知識同士又は技能同士を正しく関係づけることができる。	4J3 図解や文章表現、実験などにより、具体例を提示し説明することができる。	4J4 学んだ知識や技能に関し、新たな問や仮説を立てることができる。
		4K 知識・技能の活用（Extensions）	4K0 手順書や他者の指示があっても、知識・技能を活用することができない。	4K1 手順書や他者の指示を守って知識・技能を活用することができる。	4K2 手順書や他者の指示に従うだけでなく、現実の状況を踏まえ、実行可能な代替案を考えることができる。	4K3 プロセス全体を俯瞰して、成果を予測しながら、目標達成に向けて行動することができる。	4K4 達成状況を振り返り、改善を加えながら目標達成に向けて行動することができる。